

# 青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議  
第42号  
平成26年6月17日(火)

## ＜平成26年度理事会・総会が開催されました＞

平成26年5月13日(火)福島県青少年会館において、午前11時から理事会、午後1時から総会が開かれました。総会では杉原副会長以下役員を含めて77名の出席をいただき、昨年度の事業報告・決算報告と今年度の事業計画案・予算案の審議が行われ、原案が承認されました。また、「大人が変われば、子どもも変わる県民運動」等を推進する決議も採択されましたが、決議に先立ち青少年に関する現況をお聞きしましたので、次にご紹介します。



## 青少年育成に関する調査結果から

県教育庁社会教育課社会教育主事兼指導主事 平久井 淳様より

- 体験活動・ボランティア活動等実施状況調査を県内すべての公立小・中・高校・特別支援学校及び市町村公民館、図書館を対象に実施した。(平成26年2月)
- 体験活動：小中高ともに実施回数、時間は前年度とほぼ同じか増加傾向にあり、総合学習の時間減少の中でも各学校が積極的に取り組んでいることが分かる。
- ボランティア活動：学校、公民館、図書館でのボランティア受け入れ数は前年度とほぼ同じで震災前の状況に戻りつつある。「学習支援」と「読書活動」で98.7パーセントを占めているが、国際化にに応じて「外国出身者支援」が実施されている。また、高校生のボランティア活動は自発的な例が多く、今後の社会を支える意欲を感じる。文化の継承、学習意欲の向上コミュニケーション能力の育成等、体験学習やボランティア活動の意義は大きいと思われる。
- 県として「学習支援ボランティア」を募集している。詳細は市町村教育委員会(市町村センター)または教育事務所(教育センター)に問い合わせしてほしい。

## 少年の非行傾向と大人の役割

県警察本部生活安全部少年課長 高住成一様より

- 平成25年の検挙・補導人数は723人：記録のある昭和24年以降最少となった。しかし東北では1位(前年2位)、全国では28位(前年26位)→「共犯」が多い。
- 再犯及び不良行為(深夜徘徊、喫煙等)は減少している反面一部凶悪化の例もある。
- スマートフォン等の「ライン」から簡単に有害情報を入手でき性被害が増加している。
- まず、親子で使い方を取り決めさらにフィルタリングをかけて利用することが肝心。
- 大人たちは、子どもが幼いうちから規範意識を高め、コミュニケーション能力を育むため地域の絆を強化し地域全体で見守っていくことが大切であろう。

総会に引き続き講演会が行われ、大変有意義なお話を伺うことができました。

## 講演 「可能性への挑戦～育てよう希望、伸ばそう個性福島っ子」

水戸教育相談所 所長 水戸 昇 氏

水戸先生は福島県内の公立中学校長を歴任し、ご退職後に水戸教育相談所（自宅）の所長として 20 年前から教育相談を中心に青少年の健全育成に情熱を傾けてこられました。福島民報の「ふれあい相談」執筆者としても 13 年目を迎えていらっしゃいます。

総会当日の熱気あふれる講演及び資料から内容の一部を以下にご紹介します。

### ○ 地球に咲くのは 70 億種類の花

- ひとりひとりが「違う」のは当たり前→尊い「オンリーワン」
- 「エジソン」：ひどい劣等生だったが母親に粘土細工をほめられた  
→ 「私の人生があるのは全く母の贈り物である」  
→ 「母の声を残したい!!」→「蓄音機」の発明
- 「障がい児」は「未完の贈りもの」・教師、マラソンランナー、  
チアリーダー等の活躍例多数  
→ ない、できないことを嘆くより「もっている力」を生かすことが大切



### ○ 人間だれもがもっている願いと可能性

- 自己実現をはかりたい→「賢くなりたい」「丈夫な身体になりたい」「ともだちと仲良くなりしたい」「自分の存在感を認めてもらいたい」：「真」「善」「美」の価値実現

### ○ 子どものサインを見逃さないで

- 言葉、行動、身体、表情、食欲、笑顔、目、自己否定等→大人が気づく努力を
- 自然の中での活動や連れだって歩く（散歩等）→ 子どもの本音が出る
- 体験活動の重要性→不自由さや失敗、傷つく経験→人間関係の大切さに気づく

### ○ 親としてとりくみたいこと：鳥の目で、虫の目で



- 子どもの宝を見つけ、支え、伸ばす感性をみがく
- どんな問題があっても大きく伸びるための試練と受け止める
- 学力は知的だけでなくすべての分野に取り組む姿勢は学力
- 本物にふれる機会を多くする（自然、人物、書物）
- 親の生き方が「キラリスト」になる
- 比較、否定、命令、説教、脅迫は心に串を刺すこと  
→「患」にはしてはいけない

### ○ 福島の子どもたちの可能性を

- 教え子たちの活躍例多数：いじめられっ子、知能検査低調でも「関わり方」「指導の仕方」でぐんぐん伸びた事例（大学教授、臨床心理士、大企業社員、新聞社論説委員等）
- 「食育」の重要性→「生きる力の基本」：安心・安全の担保が必須
- メディア依存（中毒）回避を：大人が子どもの防波堤になる、顔を合わせる体験重視

## ～お知らせ～

- 「大人が変わるためのセミナー」（送付のチラシ参照）においでください。
- 「家庭の日」を実践し、子どもたちに作品（作文・絵画・ポスター）応募の奨励をしていただきたいと思います。（県内各学校に要項送付済みです）